

第7章 復旧・復興期間後を見据えた中長期的な取組

「次代につなぐ新たな丸森^{まち}づくり」の先に目指すもの

町政史上に例のない大災害から立ち上がり、次代につなぐ新たなまちを創造するためには、これらの復旧・復興への取組に加え、高齢化や人口減少への対応など本町が取り組んできた重要課題について継続的に検討を行う必要があります。

町では、これまで、住民、住民自治組織、行政がお互いにそれぞれの立場を理解し、協力して話し合いながら解決に取り組んでいく姿勢が大切であることから協働のまちづくりに取り組んできました。

今後、避けることのできない人口減少の流れを踏まえ、財政負担を低減するとともに、公共サービスの質を維持しながら、将来にわたり安心して生活できる町のあり方をしっかりと描いた中で、これまで以上に町民と緊密に協働し、新たな取組を進めていくことが重要です。

今日までの地域の暮らしや営みを大切にしながら各地区の歴史や文化を次代につなぐこと、さらには住民の生活の質(QOL)()に配慮し、その実態や意向を十分に反映させながら、住民と話し合いを重ねた上で、相互連携による持続可能なまちづくりである「丸森型サスティナブル・タウン(仮称)」について検討してまいります。

具体的には、丸森及び館矢間地区に医療、福祉、教育など、他地区にて維持が困難になるとと思われる各種サービスを補完・提供できる体制を構築するとともに、各地区内、各地区間及び隣接する他自治体に所在する交通拠点への移動の確保には、有償ボランティア運行等について、住民との協働により、早期に実現できるよう検討を進めてまいります。

「生活の質(QOL/クオリティ・オブ・ライフ)

「人生の質」、「生活の質」などと訳されることが多く、生きる上での満足度をあらわす指標のひとつ。

